

日 薬 定 例 記 者 会 見 要 旨

日 時：令和8年4月8日（水）11：30～12：20

場 所：日本薬剤師会 第一会議室

出席者：岩月会長、原口副会長、上野専務理事

内容・提出資料：

1. 処方箋情報送信端末「NB-Station」の導入に係る連携について

（令和8年4月7日 日薬情発第7号）

原口副会長より、掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

「N-Bridge」^{※1}と「NB Station」^{※2}の開発および提供に関する本会と（株）ファルモの連携開始については、昨年10月にプレスリリースを行ったが、この4月より、「N-Bridge」、「NB Station」のサイトを公開し、正式に「NB Station」の申込受付を開始した（「N-Bridge」は4月下旬開始）。

「NB Station」の申込受付、提供開始に先立ち、日本病院薬剤師会の武田会長を訪問し、本事業の趣旨および、昨今、一部の営利企業が提供する処方箋送信端末等の導入において看過し得ない課題が顕在化していることなどについてご説明の機会をいただいた。医療機関で処方箋送信端末を導入する場合は、地域薬剤師会と連携いただくよう、同会会員への周知について、ご協力を依頼申し上げた。

本会会員に対しては、この旨と、患者による薬局の適切な選択に資する環境の整備および地域医療を支える基盤づくりの観点から、「NB Station」の導入を進める場合には、地域の実情に応じて都道府県病院薬剤師会等の関係団体とも適宜連携のうえ、処方箋送信環境の整備が円滑に進むようご配慮いただくことについて、都道府県薬剤師会を通じ周知を行った。

※1 「N-Bridge（エヌ・ブリッジ）」

電子お薬手帳「eお薬手帳3.0」を基盤とした公正かつ中立な薬局DX基盤サービス。処方箋受付の一元化管理、採用薬情報共有、電子お薬手帳、オンライン服薬指導などのこれからの薬局DXに必要な機能をワンパッケージにまとめ、加えて医薬品発注など更なる効率化につながる機能がオプションとして選択可能となっている。

※2 「NB Station（エヌブーステーション）」

電子処方箋の普及を見据え、従来のFAX送信機の課題（管理の手間や電子処方箋未対応など）を解消する処方箋情報送信端末。東邦薬品（株）が長年培ってきた処方箋FAX送信システム「ENI（エニ）ファーマシー」の技術を基盤に、地域での処方箋データ連携をデジタルで推進する。特定の薬局への誘導を行わず、患者自身が希望する薬局を公正に選択できる環境を担保するとともに、地域医療を支える持続可能なインフラとして設計されている。

2. 【4/9 プレスリリースの事前情報提供】一般の方向け啓発資材 医療・健康情報の「鵜呑み禁止！」について

上野専務理事より、掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

この程、くすりの適正使用協議会、日本製薬工業協会、日本薬剤師会は、3団体で協働し、医療・健康情報を見極めるコツをまとめた、一般の方向けの啓発資材「情報の鵜呑み禁止！」を制作した。明日4月9日に3団体同時にプレスリリースを行うが、事前に情報提供させていただく。

昨今、医療・健康に対する関心が高く、インターネットをはじめ様々な情報源から情報を得ている方が多いが、それらの中には科学的根拠に乏しい情報も散見される。本資材が、ご自身や家族の健康を守るために、医療・健康情報の見極め方のコツ「み・き・き」（「みきわめる」「きく」「きめる」）を身につける一助となることを期待し制作したもの。

本資材はパワーポイント版（台本付・スライド26枚）とチラシ（A4判・両面1枚）の2種類があり、明日11時以降、3団体のホームページからダウンロードができるようになる。パワーポイントのノート部分には台本が付いており、来局者、一般の方が参加される市民講座などでご活用いただくよう、本会会員に周知予定である。

主な質疑応答は以下のとおり。

【「NB Station」について】

記者：4月から受付が始まり、現場の反応はいかがか。また、導入先は、もともと設置が無い、あるいは、設置はあるが切り替え、どちらなのか。

原口副会長：沖縄が先行している状況だが、地域や会員への説明はこれからとなる。順次導入が進んでいくと思うが、当然、別の機器を導入される地域もある。本会としては、公正かつ中立な仕組みであり、患者が適切に薬局を選択できる「NB Station」を推奨している。導入先は、元々設置無し、切り替えの両方である。

記者：看過し得ない課題、不適切な事例というのは具体的にはどういった内容か。

原口副会長：患者が処方箋を送信する際、契約料を支払った薬局が優先的に表示されたり、薬局に対して高額な手数料を課したりするシステムを一部の業者が提供している事例がある。患者の自由な薬局選択を阻害し、薬局の経営を圧迫する状況は、地域医療提供体制の持続可能性を損なうことにつながる。

記者：患者が自由に薬局を選択できないなど、不適切な事例について調査を行う予定はあるか。

原口副会長：地域薬剤師会に対しては、ニーズに関するアンケートは行う予定である。その中にそういった項目も含まれている。

【日薬会長2期目を前に】

記者：2期目はどのように臨まれるか。

岩月会長：調剤については地域住民のために入口から出口まで全て薬剤師が責任を持つ、その仕事をどのように残し、次の世代に受け渡すか、それに尽きる。

【日薬副会長選挙のあり方について】

記者：3月の総会で行われた副会長選挙について、6月の総会と併せ2回の信任を得るというプロセスの見直しは検討されているか。

岩月会長：会長に就任後すぐに問題提起し、検討を継続中である。結論は出す。

原口副会長：副会長まで選任している都道府県薬剤師会は少ない。都道府県知事も市長もトップを決めるのみで一体的な組織運営につながっているのではないか。

その他、上野専務理事より、中東情勢により現場でどのようなことが起きているのか、起きそうなのか、状況を把握していく予定であると述べられた。

次回の定例記者会見は、令和8年4月22日（水）13：00～を予定。